

小学校体育科：
表現リズム遊び」についての授業開発の試み

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-06-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 赤田, 信一, 赤田, 陽子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00010322

小学校体育科：「表現リズム遊び」についての授業開発の試み

赤田信一* ・ 赤田陽子**

A development study of Physical Education on Expression and Rhythm Play in Elementary School

Shinichi AKADA* , Youko AKADA**

Summary

This paper is a report of development of the lesson which applied to the contents of the government new guideline for teaching about the expression and rhythm play in physical education in elementary school. Generally, it's difficult to make a pleasant lesson of the expression and rhythm play. Because children are shy about expression and they can't exercise enjoying themselves. In order to build a good lesson, advanced educational instruction techniques are needed. It is meaningful that an example for making an excellent lesson is shown. So, it is wished becoming that good example and this work: "Let's enjoy a marine party together" (time about 3 minutes) in the expression and rhythm play was completed.

キーワード : 表現リズム遊び 新学習指導要領 授業開発

I はじめに

本稿は小学校低学年における体育科の「表現リズム遊び」に関する授業開発とその実践の報告である。

さて、これまでの学習指導要領における「表現リズム遊び」は、いわゆる『基本の運動』の一部として内在的に位置づけられてきたわけであるが、平成 23 年度から全面実施予定の新学習指導要領では、「高学年への系統性」を明確にするという意図から、この「表現リズム遊び」がひとつの『領域』として明確に定められることとなり、今後、小学校低学年におけるこの領域の授業が、これまで以上に活発に実践されていくことが予想されるものである。しかしながらその一方で、いわゆる「表現」の授業実践の独特の難しさから、授業者の授業実践への負担感を高めさせる可能性も危惧されている。

学習指導要領の移行期の現在、よりスムーズな移行の実現のために、また、「表現」の授業実践における授業者の負担感を払拭するためにも、質的量的にも多様

な授業実践の提案・開発が求められよう。

そこで本稿では、今後の「表現リズム遊び」の授業実践の発展を願いつつ、時代のニーズに対応すべく、当該授業の開発を試み、その実践の報告を行うものである。

本稿の授業事例が、小学校低学年における「表現リズム遊び」の授業実践の一助になり得れば幸いである。

なお、本実践は平成 19 年度に行われたものであり、平成 23 年度全面実施の新学習指導要領に示される内容にはすべて対応しきれていない部分があるが、改訂に関わった人物に直接レクチャーを受けるなど、出来る限りにおいて改訂内容の情報を把握しながらの授業の実践となっている。

II 新学習指導要領解説における「表現リズム遊び」の位置づけと内容

体育科の内容は、運動領域と保健領域から構成されているが、「表現リズム遊び」は運動領域のなかの第 1 学年及び第 2 学年の領域として位置づいている(表 1)。

なお、この「表現リズム遊び」は、「表現遊び」と「リ

*静岡大学教育学部保健体育教室

**静岡市立安倍口小学校

リズム遊び」で内容を構成されており、身近な動物や乗り物などの題材の特徴をとらえて、そのものになりきって全身の動きで表現したり、軽快なリズムの音楽に乗って踊ったりして楽しむことができる「運動遊び」とされる。また、友達といろいろな動きを見つけて踊ったり、みんなで調子を合わせて踊ったりして楽しむ「運動遊び」でもあるとされる。

「表現リズム遊び」での学習指導では、「表現遊び」と「リズム遊び」の両方の遊びを豊かに体験する中で、第3学年及び第4学年からの表現運動につながっていく即興的な身体表現能力やリズムに乗って踊る能力、コミュニケーション能力等を培えるようにし、そのために、児童の身近で関心が高く、具体的で特徴のある動きを多く含む題材や弾んで踊れるような軽快なリズムの音楽を取り上げ、「表現遊び」と「リズム遊び」の2つの内容を組み合わせたり関連を持たせたりするなど、律動的な活動を好む低学年の児童の特性を生かした学習指導の進め方を工夫することが求められている。

また、新学習指導要領解説では、「技能」、「態度」、「思考・判断」の観点が見えやすくなることが特徴的なことであり、第1学年及び第2学年の「表現リズム遊び」においても同様のことが言える。

「表現遊び」における「技能」については、身近な動物や乗り物などのいろいろな題材の様子をとらえて、そのものになりきって全身の動きで楽しく踊ることが指摘された。この時の題材の例としては、鳥、昆虫、恐竜、動物園などの動物や乗り物など、児童にとって身近に関心が高く、特徴のある具体的な動きを取り入れることが示された。また、そのようなものを具体的な動きでとらえて、跳ぶ、回る、ねじる等、全身の動きを取り入れること、また、急変した場面を取り入れることも示された。

「リズム遊び」における「技能」については、軽快なリズムの音楽に乗って弾んで自由に踊ったり、友達と調子を合わせたりすることで楽しく踊ることの重要性が示された。

「態度」においては、「表現リズム遊び」の全体を通して、運動に進んで取り組み、だれとでも仲良く踊っ

たり、場の安全に気をつけたりすることが指摘された。

「思考・判断」においては、表現遊びやリズム遊びの基本的な動きを知り、楽しく踊るための動きを選んだり、友達のよい動きを見つけたりすることが指摘された。同時に、題材なリズム特徴を知り、それに合った動きを選んでいくことも指摘された。

表1

学年	1・2	3・4	5・6
領域	体づくり運動		
	器械・器具を用いた運動遊び	器械運動	
	走・跳の運動遊び	走・跳の運動	陸上運動
	水遊び	浮く・泳ぐ運動	水泳
	ゲーム		ボール運動
領域	表現リズム遊び	表現運動	
		保健	

III 「表現リズム遊び」の授業実践の工夫と子供の学習の表れ

新学習指導要領解説に示された「表現リズム遊び」の位置づけや内容を考慮しつつ、小学校低学年（本稿では2年生を対象とした）における授業実践に取り組んだ。全面実施の時期ではない移行期における授業実践であるが、以下に示すものを実践上の工夫として取り入れ、新学習指導要領に対応させつつ、同時に子供たちの本単元における体育科での学習がより価値のあるものとなるよう努めた。

- 1) 児童にとって身近に関心が高く、特徴のある具体的な動きを取り入れるという観点から、国語の授業で学習した教材「スイミー」と「サンゴの海の生きものたち」の内容を十分に踏まえつつ、海中生物の動きを表現遊びやリズム遊びのなかに取り入れることとした。つまり、国語の授業の学

習材を体育の授業のなかに取り入れ、国語の授業でイメージを膨らませた海中生物の動きやその心情の世界観を、体育の授業において具体的に身体表現させていった。

実際の授業場面では、上記の工夫によって、例えば国語教材「スイミー」の物語のなかの『そうだ。みんないっしょにおよぐんだ。海でいちばん大きな魚のふりをして。』という文章に触発された子供たちは、体育の表現における多人数の同調した動きをするときにおいても、その動きの目的を全員が一致させながら動くことの大切さを共有していったようで、そのことによって、子供たちの全体の表現の動きは非常にダイナミックで洗練されていったようであった。また、国語教材「サンゴの海の生きものたち」の学習における「多様な海洋生物が海の中で密接に関わりあい、同時に自分の役割を果たしながら懸命に生きている」ということに触発された子供たちは、体育の表現における個別の動きをするときにおいても、仲間の動きを尊重しながらも、自分の動きをしっかりとやり抜き主張することの大切さを意識できるようになったようで、そのことによって、子供たちは個々の違った動きを通して、全体としてのひとつの世界観を表現する動きのハーモニーを奏でられるようになっていった。



(よりダイナミックに踊る)



(動きのハーモニーを)

2) 全身を使った踊り、軽快なリズムに乗った踊りを目指すという観点から、授業導入時の「体ほぐし」の時間帯において、『動きの工夫』のトレーニングを取り入れた。

実際の授業場面では、まずは、「新聞紙になろう」という活動（教師の新聞紙をひらつかせたり、折ったり、ねじる、ぐちゃぐちゃに丸める行為に応じて、子供たちは自分自身をその新聞紙に見立て、

全身で新聞紙の物真似表現をする活動)を行った。子供たちは全身を使って様々な形に変容できるという表現の楽しさを実感しているようであった。

また、表現の幅を広げそれを豊かなものにするために、次のような課題を子供たちに与え、実際に体を使って動いてもらった。

<課題の例>

スイミーの泳ぎを大げさに表現してみよう！

(4つの課題)

- 1、早送り
- 2、コマ送り
- 3、スローモーション
- 4、3回繰り返し

ペンギンの動きをイメージに合わせて表現し

てみよう！（5つの課題）

- 1、ペンギンなりに速く走る
- 2、ペンギンが遠く(近く)を見る
- 3、ペンギンが飛ぼうとしている
- 4、ペンギンが転がる
- 5、ペンギンが立ち止まる

タコの動きを反対の動きで表現してみよう！

(5つの課題)

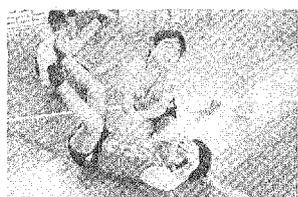
- 1、タコが速く動くーゆっくり動く
- 2、タコが大きく動くー小さく動く
- 3、強そうに動くー弱そうに動く
- 4、タコがくっつくーはなれる
- 5、お行儀よく動くー威張りながら動く

また、このような動きのトレーニングの中で、以下のような助言を適宜行った。それにより、子供たちの表現も勢いを増していき、よりリズムカルなものとなっていった。

<助言の例>

- 1、心も体も変身しよう。
- 2、大げさに、ダイナミックに。

- 3、 メリハリをつけて。
- 4、 まわりの空気をかき回そう。
- 5、 自分の動きをつくろ。他の人と違って構わない。
- 6、 恥ずかしがらずに思ったように踊ろう。
- 7、 おへその向きを動かそう。
- 8、 おへそと顔の向きを変えてみよう。
- 9、 背中まで踊ろう。
- 10、 髪の毛も踊ろう。
- 11、 顔も踊ろう。等



(自分ならではの動きを作る)



(メリハリをつけて踊る)

3) 即興的な踊りを体験させながらその楽しさを実感させるという観点から、与えられた課題を即興的に表現するトレーニングを二人組みで行わせた。

このときの課題は、子供たちが興味をもって取り組みことが出来るように、写実的な文章表現となるよう心がけた。また、二人組みで行わせることによって、いわゆる「一人でやることの恥ずかしさ」を払拭し表現の活動を活発にすること、また、お互いの即興的な動きに対してお互いに触発されていくことで表現の活動を活発にすることをねらった。

実際の授業場面では、子供たちは教師の助言や関わりを得ることを通して、積極的に即興表現に身を投じ、自分の体の動きの新たな可能性を発見しつつ、仲間との即興表現の取り組みに、その楽しさを実感しているようであった。

なお、課題の文章はカードに記載しておき（このカードをイメージカルタと呼んだ）、体育館の床へ裏に伏した状態で配置し、子供たちがそのカードをめくって解釈したのち、即興の表現の動きをしていくという形式をとった。カードの内容は以

下のとおりである。

<カード（イメージカルタ）の記載例と助言>

- 1、 虹色のゼリーのようなくらげが何かをみつけたよ。
～ふわふわしているから、手を上下に動かしてみよう！～
- 2、 水中ブルドーザーみたいなイセエビが砂をおしているよ。
～手に力を入れて押してみよう！～
- 3、 長～いなぎが体操をしているよ。
～二人で一匹のうなぎに変身しよう！～
- 4、 コンブやワカメが波にゆれているよ。
～大波が来る様子がおもしろいよ！～



(即興的な踊りの経験を通して、表現の世界を広げる)

4) コミュニケーション能力を高めるという観点から、これまで自分が体験したり作り上げたりした動きを仲間に見てもらい評価のコメントを得るという時間を設け、表現活動を通じた仲間との交流の深化を目指した。また、コメントする側にも、仲間の表現の素晴らしい部分を見つけながら、それを自分の動きに取り入れていこうとする意識を持って仲間の表現を観察するよう心がけさせた。

実際の授業場面では、子供たちは、自分の表現を見てもらうことと、仲間の表現を見るという状況において、これまでとは違う緊張感を味わいつつも、「どうすれば自分が理想とするもっとよりよい動きを表現することができるのか」ということについて、これまで以上に真剣に考える機会を得たようであった。この活動の中で、子供たちは確実に“次のステップ”を意識し、自分の動きの更なる高みを目指していこうとする意識を十分に育んでいったようであった。

授業者も上記のような子供の状態を踏まえて、以下のような写実的で具体的なコメント・助言を適宜行うことで、子供たちの表現にさらに磨きをかけていった。

<コメント・助言の例>

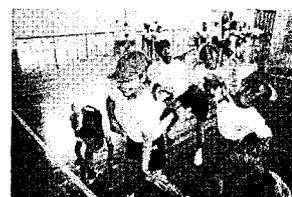
- 1、めずらしいものを見つけてとっても驚いているようにやってみようか。
- 2、ふわふわ感が出るように立ったりしゃがんだりしているのいいね。
- 3、ブルドーザーの様子がよくわかるように手を大きく広げて土をいっぱいこんでいこうよ。
- 4、うなぎの体操もいろいろな種類があていいね。
- 5、二人で同じ方向に揺れていると波が来たことがわかるね。大きな波かな、小さな波かな。
- 6、顔の表情までなりきっていて、とても良かったね。

たね。

- 7、動きのスピードの違いがあったから、大きい魚か小さい魚かわかったね。等



(顔の表情までなりきって踊る)



(仲間に動きを見てもらう)

IV 作品づくりに向けての単元展開

今回の実践では、「表現リズム遊び」のひとつの学習目標として、子供たち全員による表現の作品づくりとその披露（発表）を掲げた。以下には、その目標にたどり着くまで単元展開の概略を示す。なお、上述の『「表現リズム遊び」の授業実践の工夫』の内容については、この単元展開の概略のなかに内在させている。

●単元展開（8時間扱い）

単元展開と予想される子どもの表れ	※留意点・☆評価
<p>第1時</p> <p>いろいろなものに変身しよう。</p> <p>どう動けば、本当より本当らしく見えるだろう。</p> <p style="text-align: center;"><実践の工夫 前述2)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 折りたたみ傘になろう。折りたたむ・開く・閉じる・回転 ・ 海の生き物になって、「だるまさんがころんだ」 ・ 早送り・コマ送り・スローモーション・3回繰り返す ・ 走る（動く）・止まる・見る・跳ぶ・転がる ・ 二人だからできる動き <p>・ 体の向きを変えたり、移動したりするといいね。</p> <p>・ メリハリをつけるといいよ。大げさにやろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ※ 心をほぐし、表現運動に心も体もスイッチ・オンできる状態にするため、準備運動に体ほぐしの要素を必ず取り入れる。 ※ なりきる身体表現のおもしろさを感じさせながら、動きのダイナミックさやメリハリ、リズムの変化など、見る側の視点をあたえ、表現運動を楽しんだり上手に表現したりする素地を養う。 ※ 自由に動く雰囲気を作るため、「どこでもドア」をくぐって、海の世界に入ったり、壁に海の様子を映し出したり、BGMをかけたります。
<p>第2～4時</p> <p>海の生き物に変身しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ※ 自然と表現の幅がひろがるように、イメージカルタの内容は、

<p>イメージカルタ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブクブク、ポコポコ ・ スイスイ、スイー ・ シュッ、もぞもぞ 	<p><実践の工夫 前述1) 前述3)></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>見ている人にわかってもらうためには、どんな工夫をしたらいいかな。</p> </div>	<p>適宜発展させる。</p> <p>※授業後、動きの確認ができるように、全時間ビデオをまわしておく。</p>
<p>同じ生き物を二人で表現しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水中ブルドーザーみたいないせえびが、砂を押している。 <p>イメージと役割をもたせての表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>スイミー</u>と<u>赤い魚</u>の追いかけっこ 等 	<p><実践の工夫 前述4)></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手を伸ばして大きさにやってみよう。 ・ くりかえしたりゆっくりやったりしてみよう </div>	<p>☆海の生き物になりきって楽しく踊ることができる。</p> <p>☆見る人にわかってもらえるように動きを工夫して踊ることができる。</p> <p>☆生き物の特徴をとらえて感じを込めて踊ることができる。</p> <p>※最後には、友達のよい動きを見つけて参考にしたり、次時への意欲を高めたりするために、兄弟ペアとクイズ形式で見合って、言葉のプレゼントを贈る時間を設ける。</p>
<p>第5～7時</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>リズムダンスを作って踊ろう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>海の生き物たちが楽しくパーティーをしているように楽しく踊ろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ぼくは、スイミーになりきっておどるよ。 ・ 体をできるだけ大きく動かして踊ると楽しくなるよ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>登場（イメージカルタの創作部分）から、リズムダンスまで通して練習しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と一緒に踊ると楽しいな。 ・ リズムによって踊れるようになったからうれしい。 		<p>※即興表現での意欲や学んだことがリズムダンスにも生きるように、前時までのイメージカルタで一番気に入った動き（生き物）を選び、衣装や動きも工夫して、海の生き物になりきって、リズムダンスをする。</p> <p>☆リズムによって全身で弾んで踊ることができる。</p> <p>☆海の中の生き物になりきって踊ったり、リズムによって全身で弾んで踊ったりして、みんなで楽しく踊ることができる。</p>
<p>第8時</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>発表会を開こう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ おうちの人たちの前で、おもいきり踊れて楽しかったよ。 		<p>※おうちの人に「言葉のプレゼントカード」を書いてもらう。</p>

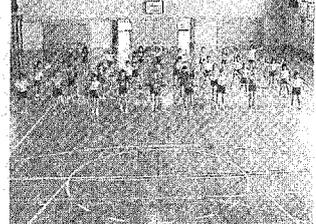
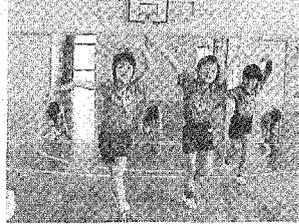
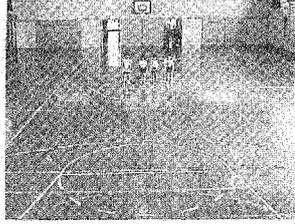
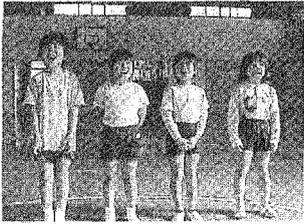
V 完成した作品の概要

前述の単元構成の最終段階において作品づくりとその発表を行い、本授業実践のひとつのまとめとした。

子供たちはそれまでに様々な表現の工夫を行い、それを発表会の場において保護者を前に披露していった。

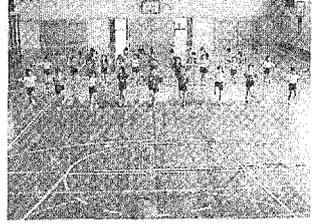
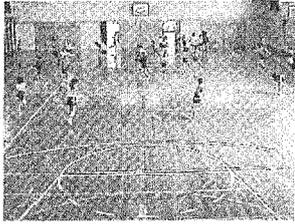
仲間と協調しながらダイナミックでリズムカルな動き・表現を行いつつ、同時に、自分が作った個性的な動き・表現をも適宜組み入れ、それぞれの子供が本当に楽しく踊りぬいていた姿が印象的であった。なお、その作品のタイトルは「海のパーティーをひらこう」であった。以下にはその作品の概要を写真で示す。

● 作品名「海のパーティーをひらこう」



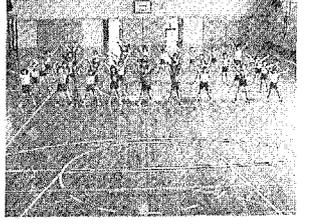
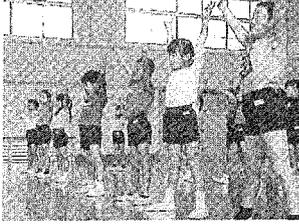
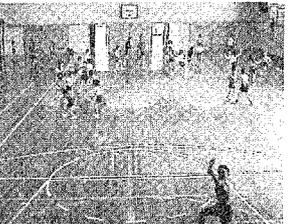
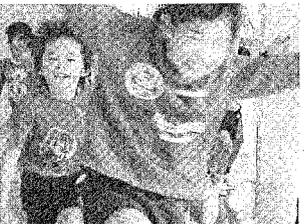
①中央から掛け声「海のパーティーが始まるよ。集まれ。」

⑦体を大きく使いながら動いていく。



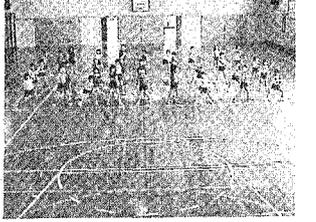
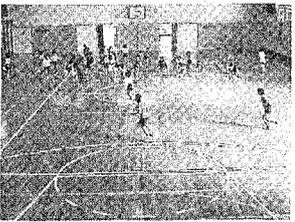
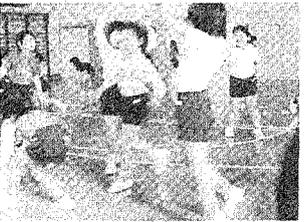
②「変身」するための海への入り口から全員が入ってくる。

⑧顔の表情も大切。楽しいから自然と笑顔がこぼれだす。



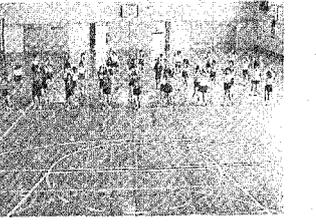
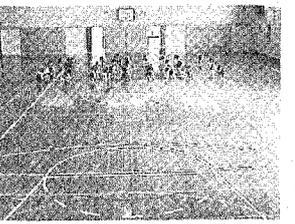
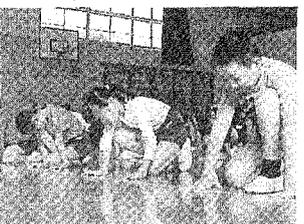
③まさに「水を得た魚」のように勢い良く動き回る。

⑨決めポーズの時は、指先までも意識する。



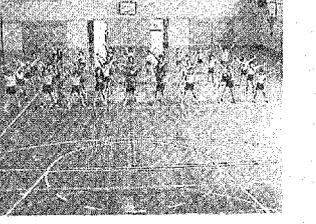
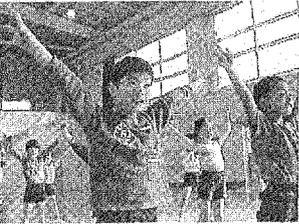
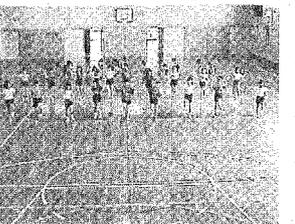
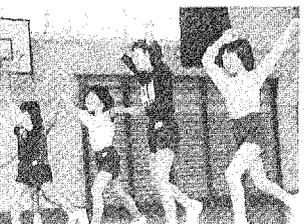
④仲間の魚と戯れながら、自分の住み家を探す。

⑩力強く、ダイナミックに体を使っていく。



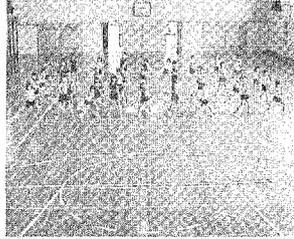
⑤住み家に落ち着く魚たち。パーティーの準備は整った。

⑪動きにメリハリをつけて、心まで弾ませて躍る。

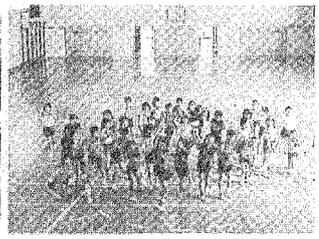
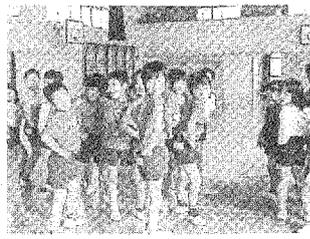


⑥軽快なリズムの曲に乗って全員で行進。

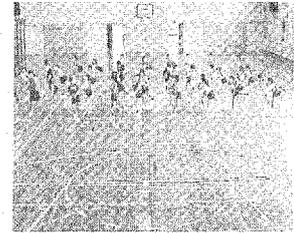
⑫仲間と共に動きのハーモニーを奏でるように踊る。



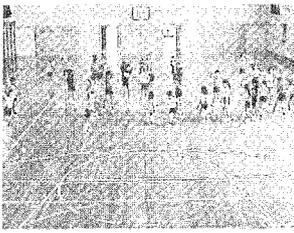
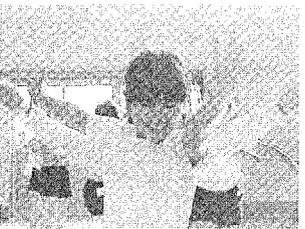
⑬大きな魚を表現するときは、体の中心にまで力をこめて。



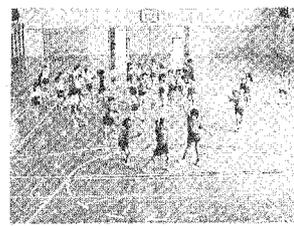
⑭エンディング 仲間と楽しく踊りきった充足感が漂う。



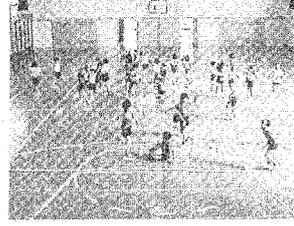
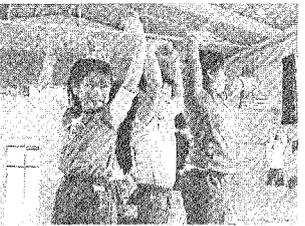
⑭小さな魚を表現するときは、指先の小さな動きも大切に。



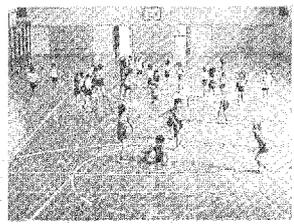
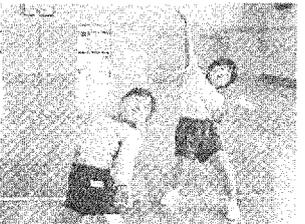
⑮イトマキエイの優雅な泳ぎ。胸を大きく広げて表現する。



⑯イソギンチャクとクマノミの共生。自分たちの踊りで表現。



⑰ワカメの群生。波で小さく揺れる様子を手先で表現。



⑱コンブの群生。肉厚なコンブを、動きを同調させて表現。

VI おわりに

以上、小学校低学年における体育科の「表現リズム遊び」に関する授業開発とその実践の様子を報告した。

ここでは、いわゆる「表現の授業実践の難しさ」を乗り越えるための実践上の工夫・アイデアを、僅かながらでも提示出来たのではないかと考えている。学習指導要領の移行に伴い、今後数多く実践されていくことが予想される「表現リズム遊び」の授業において、今回の報告がその一助となり得ることがあれば幸いである。

なお、本稿で報告した授業については、指導案・単元構想の作成も含め、授業開発・授業実践に関することは赤田陽子が担当し、新学習指導要領の内容とのマッチングや記録・記載等は赤田信一が担当した。

謝辞

授業開発・授業実践に際して様々な指導・助言をいただいた静岡市立安倍口小学校長をはじめ教職員の皆様に対しまして心より感謝申し上げます。また、報告・研究用としての児童の写真掲載をお許しいただいた保護者様にも心より感謝申し上げます。

参考文献

- ・ 最新楽しいリズムダンス・現代的なリズムダンス 小学館 村田芳子
- ・ 楽しくできる授業「体ほぐし」の運動 小学館 杉山重利 他
- ・ 「体ほぐしの運動」活動アイデア集 教育出版 村田芳子 他